

2021 年度事業計画概要

(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

新材料及びこれに関連する科学技術分野における助成事業（**公益事業 1**）及び科学技術啓蒙事業（**公益事業 2**）を実施する。

公益事業 1

1. 研究助成

1-1. 研究助成

新材料及びこれに関連する科学技術分野で、新規材料開発の基礎並びに応用を指向する独創性の高い研究を対象とし、大学等に常勤する 45 才未満の研究者に対して研究助成を行う。

(1) 2021 年度（第 33 回）研究助成の実施

2021 年 3 月の第 74 回（公益認定後第 27 回）理事会で承認・決定した 12 名に助成金を贈呈する。助成額は 1 件あたり 2,000 千円、総額 24,000 千円。

(2) 第 24 回研究成果報告会

2020 年度研究助成金受領者による研究成果報告会を、2021 年 12 月 2～3 日に（株）トクヤマ・徳山製造所において開催する。

(3) 2022 年度（第 34 回）研究助成の公募

公募期間は 2021 年 8 月 1 日から 9 月 23 日。選考委員による書類審査を経て、12 月 2 日の選考委員会において候補者を選出する。

1-2. スタートアップ助成

上記 1-1. 研究助成の対象者のうち、学位取得後 10 年以内及び現在のポジションに就いて 3 年以内の研究者に対して研究助成を行う。

(1) 2021 年度（第 1 回）スタートアップ助成の実施

2021 年 3 月の第 74 回（公益認定後第 27 回）理事会で承認・決定した 10 名に助成金を贈呈する。助成額は 1 件あたり 1,000 千円、総額 10,000 千円。

(2) 2022 年度（第 2 回）スタートアップ助成の公募

公募期間は 2021 年 8 月 1 日から 9 月 22 日。選考委員による書類審査を経て、12 月 2 日の選考委員会において候補者を選出する。

1-3. 発展研究助成

上記 1-1. 研究助成の直近の助成修了者を対象とし、当該研究助成の発展・展開が期待される研究者に対して研究助成を行う。

(1) 2021 年度（第 2 回）発展研究助成の実施

2021 年 3 月の第 74 回理事会（公益認定後第 27 回）で承認・決定した 2 名に助成金を贈呈する。助成額は 1 件 5,000 千円、総額 10,000 千円。

(2) 2022 年度（第 3 回）発展研究助成の選考

2020 年度研究助成の終了者（15 名）が対象。2021 年 12 月 2 日の選考委員会において候補者を選出し、2022 年 3 月の理事会で承認・決定する。

2. 国際交流助成

海外で開催される、新材料及びこれに関連する科学技術分野における国際会議への参加に対して費用の一部を助成する。

(1) 2021 年度（第 34 回）国際交流助成の実施

選考委員による審査選考にて選出し、2021 年 5 月の理事会で承認・決定する 2 名に助成金を贈呈する。助成額は 1 件 150 千円、総額 300 千円。

(2) 2022 年度（第 35 回）国際交流助成の公募

公募期間は 2022 年 2 月 1 日から 3 月 22 日。選考委員による書類審査を経て候補者を選出する。

3. 国際シンポジウム助成

国内で開催される、新材料及びこれに関連する科学技術分野における国際シンポジウムに対して費用の一部を助成する。

(1) 2021 年度（第 32 回）国際シンポジウム助成の実施

2021 年 3 月の第 74 回（公益認定後第 27 回）理事会で承認・決定した 7 件について、助成金を贈呈する。助成額は 1 件 300 千円、総額 2,100 千円。

(2) 2022 年度（第 33 回）国際シンポジウム助成の公募

公募期間は 2021 年 8 月 1 日から 9 月 22 日。選考委員による書類審査を経て、12 月 2 日の選考委員会において候補を選出する。

公益事業 2

科学技術啓蒙助成

将来を担う世代を対象とした科学技術の普及啓発事業に対して助成する。

(1) おもしろワクワク化学の世界展

青少年を対象に日本化学会中国四国支部が主催する演示実験会「おもしろワクワク化学の世界展」に対して助成する。助成額は 2,000 千円。

(2) 少年少女発明クラブ

(一社) 山口県発明協会等が支援する少年少女発明クラブに対して助成する。助成額は 1 クラブ 50 千円、7 クラブ、総額 350 千円。

2021年度（第33回）研究助成

（12件、総額 24,000千円）

（五十音順）

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	研究題目	助成額 （千円）
1	足立哲也	39	助教	京都府立医科大学 大学院医学研究科 歯科口腔科学	窒化ケイ素セラミックスを用いた口腔カンジダ症の感染制御	2,000
2	安部聡	40	助教	東京工業大学 生命理工学院 生命理工学院系・生命工学コース	大腸菌内タンパク質合理的共結晶化を用いた機能性固体材料の創成	2,000
3	石井あゆみ	40	特任講師	桐蔭横浜大学 大学院工学研究科	微弱な近赤外光を可視光に変換する色素増感型アップコンバージョンナノ粒子の開発	2,000
4	國信洋一郎	44	教授	九州大学 先端物質化学研究所 物質基盤化学部門	湾曲したナノグラフェン類および含ヘテロ原子n共役系分子の創製	2,000
5	鷹谷絢	44	准教授	東京工業大学 理学院 化学系	フラストレイテッドルイスベアの光反応の開拓を起点とする機能性材料開発	2,000
6	寺井琢也	39	特任准教授	東京大学 大学院理学系研究科 化学専攻	合成化学と進化分子工学に基づく長波長chemi-genetic蛍光センサーの開発	2,000
7	所裕子	44	教授	筑波大学 数理物質系 物質工学域	異種金属置換型・蓄熱酸化チタンの合成手法の開発と蓄熱特性最適化	2,000
8	中村崇司	38	准教授	東北大学 多元物質科学研究所 固体イオニクス・デバイス研究分野	アニオン欠陥の自在制御による高効率エネルギー貯蔵材料の開発	2,000
9	久木一朗	43	教授	大阪大学 大学院基礎工学研究科 物質創成専攻	光で開閉制御する多孔性有機機能材料の創出	2,000
10	前田和彦	41	准教授	東京工業大学 理学院 化学系	新規二次元層状酸窒化物の合成と光触媒機能	2,000
11	山本拓矢	43	准教授	北海道大学 大学院工学研究科 応用化学部門	全π共役系環状高分子を用いたトポロジカル材料開発	2,000
12	渡邊貴一	34	助教	岡山大学 大学院自然科学研究科 応用化学専攻	クリック反応性イオン液体モノマーを基盤とする主鎖型高分子イオン液体材料の創製と物性制御	2,000

2021年度（第1回）スタートアップ助成

（10件、総額 10,000千円）

（五十音順）

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	研究題目	助成額 （千円）
1	アルブレ ヒト建	37	准教授	九州大学 先端物質化学研究 所 融合材料部門	熱活性化遅延蛍光 dendrimer への蛍光色素 ドープによる高効率塗布型有機EL素子の創製	1,000
2	北沢裕	32	准教授	信州大学 先端領域融合研究 群 先端材料研究所	アニオン性ホウ素クラスターを利用した新規 イオン伝導材料の創出	1,000
3	小林裕一郎	38	助教	大阪大学 理学研究科 高分子 科学専攻	加工性・安定性に優れた超分子硫黄ポリマー 合成法の開発	1,000
4	田中健太	30	嘱託助教	東京理科大学 薬学部 生命創 薬科学科	高い酸化力を有する有機光レドックス触媒の 開発と生物活性物質合成への応用	1,000
5	田港聡	35	助教	三重大学 大学院工学研究科 分子素材工学専攻	異種活物質材料界面の活用に基づく蓄電池電 極反応の開拓	1,000
6	寺正行	38	テニユア トラック 准教授	東京農工大学 大学院工学研 究院 生命機能科学部門	歪みジーン化合物の特異的反応性を利用した 生細胞接着技術への応用	1,000
7	仲谷学	30	助教	城西大学 理学部 化学科	水素結合型金属錯体における異方的なネット ワーク構築と機能開拓	1,000
8	西川剛	31	助教	京都大学 大学院工学研究科 高分子化学専攻	ホウ素の変換を鍵とした刺激応答型分解性高 分子の設計・合成手法開拓	1,000
9	藤林将	28	博士研究員	広島大学 先進理工系科学研 究科 先進理工系科学専攻	イオン包接型分子を用いた単分子機能の開拓	1,000
10	諸藤達也	32	助教	学習院大学 理学部 化学科	ダブル(5+1)反応による非対称ベンゾフェノン の合成とホール輸送材料創出への応用	1,000

2021年度（第2回） 発展研究助成

（2件、総額 10,000 千円）

（五十音順）

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	研究題目	助成額 （千円）
1	北野政明	42	准教授	東京工業大学 元素戦略研究 センター	格子NおよびNHxサイトを利用した高活性アン モニア合成・分解触媒の開発	5,000
2	新谷亮	43	教授	大阪大学 大学院基礎工学研 究科 物質創成専攻	縫合反応を基盤とした新規機能性有機分子の 創出	5,000

2021年度（第34回）国際交流助成

（2件、総額 300 千円）

（五十音順）

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	会議名（機関・場所）	研究題目	助成額 （千円）
1	高原 茉莉	33	助教	北九州工業高等専門学校 生産デザイン工学科	環太平洋国際化学会議2021 （Pacifichem 2021）（2021/12/16-12/21）、ホノルル[アメリカ・ハワイ]	両親媒性リポペプチドを用いた酵素反応によるタンパク質の血中半減期長期化	150
2	長谷川真士	43	講師	北里大学 理学部	環太平洋国際化学会議2021 （Pacifichem 2021）（2021/12/16-12/21）、ホノルル[アメリカ・ハワイ]	歪んだ単一有機分子からの円偏光発光	150

2021年度（第32回）国際シンポジウム助成

（7件、総額2,100千円）

No.	会議名称	開催期間・場所	主催団体名	組織/実行委員長	参加者（人）			助成額 （千円）
					国内	海外	合計	
1	第22回レーザー精密微細加工国際シンポジウム	2021/06/08-06/11 弘前市民会館（弘前市）	レーザー加工学会	ジェネラルチェア（組織委員長） 産業技術総合研究所 副研究部門長 新納弘之	150	100	250	300
2	第21回絶縁材料の照射効果に関する国際会議	2021/08/29-09/03 九州大学医学部百年講堂（福岡市）	「第21回絶縁材料の照射効果に関する国際会議」組織委員会	組織委員長 九州大学 准教授 安田和弘	70	110	180	300
3	第5回国際シンポジウム“次世代機能性材料・表面／界面物性の解明”	2021/10/07-10/09 大阪大学銀杏会館（吹田市）	大阪大学大学院工学研究科 菅原・李研究室	実行委員長 大阪大学 准教授 李艶君	60	11	71	300
4	第25回IBA国際会議（IBA2021）	2021/10/09-10/15 富山国際会議場（富山市）	「IBA2021国際会議」実行委員会	実行委員長 京都大学 准教授 松尾二郎	120	150	270	300
5	第16回国際エンドトキシン自然免疫学会	2021/10/12-10/15 神戸国際会議場（神戸市）	国際エンドトキシン自然免疫学会	大会長 大阪大学 教授 深瀬浩一	120	80	200	300
6	第13回新材料とデバイスの原子レベルキャラクタリゼーションに関する国際シンポジウム	2021/10/17-10/22 万国津梁館（沖縄）	日本表面真空学会マイクロビームアナリシス技術部会	実行委員長 東京大学 教授 長谷川哲也	250	50	300	300
7	第14回先進プラズマ科学と窒化物及びナノ材料への応用に関する国際シンポジウム/第15回プラズマナノ科学技術国際会議	2022/03/06-03/10 名古屋大学	応用物理学会	組織委員長 名古屋大学 教授 大野哲靖	190	260	450	300

（開催日順）

2021 年度 科学技術啓蒙助成

事業名称	おもしろワクワク化学の世界 '21 香川化学展
助成額	2,000 千円
主催	公益社団法人 日本化学会中国四国支部
共催	公益財団法人 徳山科学技術振興財団、高松市教育委員会
後援	香川大学、徳島文理大学、NHK 高松放送局、RNC 西日本放送、瀬戸内海放送、RSK テレビ、TSC てれびせとうち、OHK テレビ、四国新聞、朝日新聞高松支局
大会委員長	菅誠治（岡山大学大学院 教授、2021 年度日本化学会中国四国支部長）
実行委員長	高木由美子（香川大学 教授）
実行委員	香川大学（教育学部、医学部、創造工学部、農学部）、徳島文理大学の関係者
開催期間	2021 年 8 月 14 日～17 日 → 変更 8 月 7 日（土）～8 月 8 日（日） 2 日間
場所	サンポート高松展示場・第 2 小ホール 高松市サンポート 2-1 → 変更 オンライン
展示ブース	実験ブース数 約 20 程度 → 変更 オンラインデモンストレーションや、遠隔指導による体験実験
参加対象者	幼児、小学校児童、中学校生徒およびその保護者、一般
事業概要	化学に関するデモンストレーション（演示実験）、体験実験を通して、21 世紀を担う青少年に、化学や化学技術の重要性、面白さや不思議さを伝えることにより、夢を与えることを目的とする。本化学展により、青少年の素朴な疑問や好奇心を感動につなげる機会を提供するとともに、参加者の化学や化学技術に対する認識も刷新したい。

事業名称	少年少女発明クラブ
助成額	1 クラブ 50 千円（7 クラブ合計 350 千円）
主催	（一社）山口県発明協会、山口県内市町村教育委員会
共催	山口県内市町村、同公共施設、同商工会議所 他
運営組織	各クラブの企画運営委員会
活動期間	2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日 （1 年間）
場所	山口県内公共施設
参加対象者	小中学生及びその保護者
事業概要	本クラブは、現在全国に 214 のクラブがあり、約 11,000 名の子どもたちが、約 2,800 名の指導員のもと科学的な原理に基づく工作実習、創作活動等の体験学習を行っている。山口県では現在 7 クラブ（下関市、山口市、宇部市、防府市、周南市、柳井市、田布施町）が活動している。本活動は、子どもたちに地域の特徴を生かした創意工夫に基づく創作活動の場を提供し、作品製作や実験を通じて、アイデアを形にする能力と技術を持った創造性豊かな人間形成に寄与することを目的として活動し、有意義な成果が得られている。